

第113号

# 酪農とちぎ



10月27日牛魂碑供養時

- 1 ページ 表紙
- 2～4 ページ 令和2年度上半期事業実績（各部門）
- 5 ページ 東西南北（各支所）
- 6 ページ 部課だより（業務部）
- 7 ページ “ （生乳受託課）
- 8 ページ 理事会だより、令和2年度下期支所事業  
市場成績



えみ  
コロナ対策笑味ちゃん



# 令和2年度上半期事業実績

上半期の各部門を合わせた事業総利益は3億7240万円(計画比102.4%)となり、事業利益においては計画差2064万増、経常利益においても計画差1666万増の実績になりました。

大きく計画を上回った要因は、購買事業において全酪連等からの配当金が計画外にあったためであり、それらを修正した場合は経常利益で741万程計画を下回る状況となります。

下半期も2カ月を過ぎますが各事業、計画達成に向け事業を推進して参りますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます、以下に各部門の上半期実績について概況を報告いたします。

## 一、生乳受託事業

### 生産状況等について

生乳生産量は第一四半期において計画比100.7%と順調な生産となり、7月中旬迄は梅雨による低温の影響もあり計画を上回る生産となりました。しかし、梅雨明けと同時に猛暑日が続いたため7月下旬より減少傾向に転じ、8月単月の生産量は計画比97.6%と2年連続で大きく下回りました。9月は下旬に入り一定の回

復もありましたが、計画比98.1%となりました。

その結果、上半期の生産量は11万8233t(前年比101.0%)、計画比99.6%と若干計画数量を下回る生産となりました。

また、生乳販売高は本年4月からコロナウイルスによる休校が影響し、関東生乳販連の特定乳製品向けが前年比114.9%と増加、加工率が1.04%前年を上回った影響で販売単価が減少したため、136億9621万円(前年比100.5%計画比99.5%)の実績となりました。

尚、自主申告による上半期の生乳委託予定数量は12万0029t(382戸)であり、出荷実績との対比は98.5%となりました。

### 乳質について

乳脂肪率は昨年と同様な結果となり、猛暑の影響による受送乳業務に支障を来す路線が散見されること、心配されましたが、集乳路線の組み替えによる対応を進め、小限に留める事が出来ました。無脂乳固形率は、猛暑の影響が少なく前年を上回りました。体細胞数は月々で上下はあったものの昨年同様の値となりました。

また、上半期の不合格件数は6

月度が前年を上回ったものの以降は前年を下回る状況となったため、合計で489件、前年を46件下回る件数となりました。

生乳生産管理チェックシートの完全定着化については、重点項目の未記帳者を0件と目標を継続することができました。

尚、不良乳の発生は6件(異物混入・抗菌性物質2件、細菌数1件、血乳3件)となり前年(7件)を1件下回りました。

### 奨励金について

需要期出荷奨励金は1億2398万円(前年比100.9%、計画比99.6%)で、需要期優良生乳出荷奨励金は該当率33.4%、5072万円(前年比144.0%計画比125.2%)の実績でした。

## 二、購買事業

上半期の飼料供給量は、濃厚飼料は新規利用や増頭等による供給量増があり3万9096t(計画比100.9%)、粗飼料は稲WSCの供給が下期での供給になった事や固形粗飼料のメニュー変更による供給量減がありました。また、キャンペーン等による長物粗飼料の利用量増等があり1万5815t(計画比105.1%)と計画を上回りました。

そのような状況下で、利用量別奨励金を配合飼料1億1307万円、粗飼料1392万円、TMR

等980万円で総額1億3680万円、計画比103.5%を支払う事が出来ました。

配合飼料供給量別利用奨励金については、大口利用者の供給量が増えたことで、前年実績及び計画を上回る結果となりました。

収支実績においては、計画外での配当金、特別奨励金の入金があったことにより、事業総利益1億1181万円(計画比126.1%)となりました。

## 三、酪農指導及び流通事業

酪農指導事業においては酪農経営の安定を図るため、巡回指導を通し飼養管理改善を行ったほか、各種補助事業を推進すると共に、組合・制度資金借入等の相談や組織活動支援に努めました。

経営及び飼養管理改善の指導支援については、酪農経営安定に向けて、飼養管理改善や飼料給与相談を399件行いました。検定成績を活用すると共に、現場で糞洗いを実施し牛が摂取した飼料の消化状態を把握するなどし、飼料給与や環境改善策の提案を行いました。乳質向上に向けて360件の指導や相談を行いました。その中で、バルク乳スクリーニング検査の結果から個体乳の検査、分房別の検査を行い体細胞数の低減に取り組みました。また、搾乳立会を適宜行い、必要に応じてラクトコーダーを利用しながら搾乳手順の確認や搾乳衛生に関するアドバ



イス等を通して、乳質改善の向上を図りました。併せて、夏場の飼養管理についての文書を発信し、飼養環境の改善や血乳の注意喚起を行いました。

補助事業関連については、個々の経営安定向上を目的として各種事業に取り組ましました。畜産・酪農収益力強化整備特別対策事業（クラスト事業）をはじめ、中小酪農経営等生産基盤維持・強化対策事業、畜産・酪農生産力強化対策事業、環境負荷軽減型酪農経営支援事業、酪農経営体生産性向上緊急対策事業（畜産ICT事業）、酪農経営災害緊急支援対策事業に取り組みました。また、公社営事業による規模拡大に対応して、関係機関や金融機関との協議を行いました。

良質自給飼料生産の安定と拡大に向けた取り組みについては、農作業受委託検討会を開催し、既存組織の受託状況の把握と新たな組織の立ち上げ支援について検討しました。その上で、各支所、各地域の実情、要望を把握し引き続き既存組織の支援を行うこととしました。酪農とちぎアグリサポートにおいて効率的な作業が行われるように、各支所と連携して対応いたしました。良質自給飼料増産プロジェクトにおいて、デントコーンおよび牧草の収穫、サイレージ調整等について文書を2回発信し、良質な自給飼料生産に対する啓蒙を行いました。今年度も県北

を中心に放射線物質の影響による牧草の給与前検査が必要なことから、サンプル採取の巡回等を通し、安全で安心な生乳生産に努めました。粗米サイレージの製造は、高根沢町と下野市の2拠点において、42名の稲作農家から約137ヘクタールの粗米を買受けし、粗米サイレージの製造を行う準備を行いました。また、今年度、新たに2組織が粗米サイレージの製造を開始するにあたり、技術提供および立ち上げのサポートを行いました。

担い手の確保については、7月

に栃木県酪農担い手確保推進協議会が設立し、行政・生産者団体間での情報交換と、担い手確保に向けた取り組みを行うこととなりました。また、後継者向けの経営能力向上へ向けた研修会の開催について、県と協議を重ね、下期からの開催に向けた準備を行いました。なお、カップリングパーティーについては、開催を見合わせました。

ヘルパーの稼働実績については、新型コロナウイルスに伴う定休利用見合わせにより計画を下回りました。今後のヘルパー制度の維持を念頭

に、全国酪農ヘルパー協会と制度改正および求人方法等について検討を行いました。生乳生産現場の環境整備と美化の推進について、牛舎環境調査を実施いたしました。全体の98.7%の組合員の方が70点以上の点数を獲得されました。様々な伝染病のリスクが高まる中、「牛舎・処理室消毒槽の状況」に関しては、今後も実施の継続を啓蒙していく必要があります。また、牛舎環境美化の一環として計画していた花の苗配付については下期に行うこととしました。

### 令和2年度上半期 予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)	
生乳	収益	15,341,247	15,262,595	▲ 78,651	99.5%
	費用	15,100,317	15,037,884	▲ 62,432	99.6%
	利益	240,930	224,710	▲ 16,219	93.3%
購買	収益	3,885,420	3,941,712	56,292	101.4%
	費用	3,796,750	3,829,899	33,149	100.9%
	利益	88,670	111,812	23,142	126.1%
酪農指導	収益	124,372	123,823	▲ 548	99.6%
	費用	122,745	115,468	▲ 7,276	94.1%
	利益	1,627	8,354	6,727	513.5%
流通	収益	229,990	229,507	▲ 482	99.8%
	費用	229,416	228,862	▲ 553	99.8%
	利益	574	644	70	112.2%
改良	収益	190,736	205,854	15,118	107.9%
	費用	176,897	190,463	13,566	107.7%
	利益	13,839	15,390	1,551	111.2%
診療	収益	17,059	18,829	1,770	110.4%
	費用	7,135	8,130	995	113.9%
	利益	9,924	10,699	775	107.8%
牧場	収益	87,744	88,029	285	100.3%
	費用	79,640	87,237	7,597	109.5%
	利益	8,104	791	▲ 7,312	9.8%
事業総収益	19,876,568	19,870,350	▲ 6,217	100.0%	
事業総費用	19,512,900	19,497,946	▲ 14,953	99.9%	
事業総利益	363,668	372,404	8,736	102.4%	
事業管理費	354,166	342,252	▲ 11,913	96.6%	
事業利益	9,502	30,151	20,649	317.3%	
事業外収入	11,797	12,368	571	104.8%	
事業外費用	5,834	10,386	4,552	178.0%	
経常利益	15,465	32,133	16,668	207.8%	

### 同 (株)酪農とちぎアグリサポート予算実績比較表

(単位：千円)

項目	計画	実績	計画差	計画比(%)
収益	49,450	55,316	5,866	111.9%
費用	49,358	56,572	7,214	114.6%
利益	92	▲ 1,256	▲ 1,348	-



各組織が展開する事業運営について、新型コロナウイルス感染拡大防止を図りつつ自主的な組織活動の充実に向け活動協力を努めました。また、各支所において青色申告研修会を開催しました。

流通事業について、乳牛導入事業は、組合員間の初妊牛の導入や、離農による経産牛の販売があったものの、北海道導入の需要が無く、計画を下回りました。肉用化事業は大口の出荷があり、計画を上回りました。預託事業は、県外預託の頭数減があったものの、県内預託の頭数増により計画を上回りました。

#### 四. 改良事業

凍結精液について、乳用牛は、クラスター事業及び後継牛安定確保対策事業により性別別精液の利用を促進しましたが、クラスター事業分精液供給ズレや夏場の猛暑による授精頭数減少等により、計画を下回る実績となりました。肉用牛は、AI事業体の協力を得て人気種雄牛精液の確保に努め、精液情報及び価格の変更等情報提供に努め販売増を図りましたが、一部人気精液に入荷制限や入荷時期のズレ等により計画を下回る実績となりました。また、AI事業体をはじめ県内酪農協と共に、乳用牛精液の推奨牛を選定し推進を図りました。(実績1万8434本 計画比95・3%)

受精卵販売事業は、リピートプ

リーダー対策のF1受精卵の供給推進等を行いました。また、クラスター事業分受精卵の早期確保に努めた結果、計画を上回る実績となりました。(実績1999個 計画比131・1%)

登録業務において、血統登録はほぼ計画通りでした。その他証明書は、前期牛群審査が中止となったことや、全共をはじめとした共進会の中止による検定成績の申し込みがなかった為、計画を下回る実績となりました。(実績1869件 計画比79・9%)

牛群検定成績の利活用と新規加入推進については、コロナウイルス感染対策のため、例年行ってきた各検定組合の組合長と事務局を対象にした打合せは開催できませんでした。書面にて各関係情報を提供し、検定員の質の向上に努めました。

ゲノミック評価を今後の乳牛改良にどのように取り入れていくかを課題として、モデル農家を選定いたしました。下期にモデル農家のゲノミック評価結果をもとに、今後の利用法を検討いたします。

#### 五. 診療事業

繁殖検診は、妊娠鑑定及び再妊鑑頭数が少なく計画を下回りました。(計画比94・9%)

血液検査は、周産期病予防のための検査依頼が多く計画を上回りました。(計画比227・5%)

乳房炎防除について、バルク乳

検査は、計画通り各支所実施しましたが、離農等による実施戸数の減により計画を下回りました。(計画比95・0%)

個体乳検査は、バルク乳検査後の依頼が多く計画を上回りました。(計画比280・0%)

分房乳検査は、依頼や必要性が少なく計画を下回りました。(計画比32・0%)

受精卵移植事業について、採卵は、ホルスタインは計画通りでしたが、和牛の依頼が少なく計画を下回りました。(計画比88・9%)

移植は、IVF卵やふれあい牧場での移植依頼が多く計画を上回りました。(計画比146・1%)

人工授精は、検診時の同期化授精が多く計画を上回りました。(計画比123・2%)

診療等は、一般診療が多く計画を上回りました。(計画比137・1%)

証明書発行は、授精証明書の発行が多く計画を上回りました。(計画比154・1%)

放牧場関係は、ふれあい牧場の預託依頼頭数が多く計画を上回りました。(計画比110・5%)

#### 六. 牧場事業

牧場の飼養、圃場管理全般の作業等を酪農とちぎアグリサポートに委託し、効率的な事業運営が図れました。預託頭数について、預託需要が増えている状況の中、計画預託頭数の確保が出来まし

た。(計画比109・0%)

飼養管理、衛生管理を徹底し、発育向上に努めています。また月2回の定期健診等を行いました。ここ数年連続の酷暑となり平均分娩月齢24・9ヶ月となりました。

飼料価格が高止まりしている状況の中、自給飼料及び国産飼料の有効利用を図りました。しかし天候不順の影響及び更新等により生産物は計画を下回りました。ふれあい牧場と各放牧場の一体管理による効率的な事業運営を目指し、小林放牧場と土上平放牧場を利用し、効率的な運営が出来ています。

#### 七. 経営管理

事業管理費は、人件費並びに新型コロナウイルス対応に伴う旅費交通費、業務費等が減少し、計画を下回ったことから3億4225万円(96・6%)の実績でした。

#### 酪農とちぎアグリサポート

ふれあい牧場の運営支援と組合員の自給飼料生産支援又は、労力の軽減支援を図ることを事業方針とし、事業を実施して参りました。特に受託事業、人的支援については、受託作業面積が増えて計画を上回る実績となりましたが、収支実績については、天候等の影響で外注作業が増えたこと、農機具費増により計画を下回る実績となりました。



## 那須高原支所

### 花の苗配布（支所協議会）

10月27日、花苗配布を実施しましたが、例年6月に配布していましたが、コロナ渦でもあり延期していましたが、外での配布と職員等もマスク着用し対応し青年部・女性会、地区役員等の協力のもと（パングジー・ビオラチューリップの球根）配布を行いました。



那須高原支所協議会花苗配布

今年には各種イベント・研修会等、自粛や中止となり気持ちもふさぎがちになることが多かったと思います。花苗を育て、きれいに牛舎周辺や自宅周辺を飾り少しでも明



る気持ちになっていただきたいと思います。

## 宇都宮支所

### 青年部で搾乳体験を開催

11月18日、矢板市の「こどもの森こころ保育園」において、塩谷支部（羽田光論支部長）が恒例の搾乳体験を開催いたしました。

今年とは例年と違い、新型コロナウイルス感染が心配される状況にありましたが、保育園からの実施要請もあり、事前に保育園と感染防止対策の打ち合わせを行い、当日は必要最低限の人数での実施となりました。

当日は年長さんの31名が体験さ



熱心に搾乳体験の話を聞く園児たち

れました。園児たちは大喜びで牛に触れ、「牛のおっぱいは暖かいね。柔らかいね。」等の感想も多くあり乳搾りを楽しみました。

同保育園での開催は今年で7年目となり、今では先生や父兄の方からも、卒園アルバムを飾る思い出として親しまれており、今後も継続していく予定です。

以上、青年部活動により、酪農の理解を深める事が出来ました。

## 県南支所

### 花の苗配布（支所協議会）

11月5日、支所事業における環



杉野健司支部長  
(青年部河内南部・下都賀支部)



大島雅広支部長  
(青年部芳賀支部)

境美化の一環として、花の苗（パングジー・ビオラ）を配布しました。例年は、2地域酪農組合合同研修会と同日に配布していましたが、今年にはコロナによる研修会の中止により、青年部員の方々にご協力を頂きながら、管内全農家へ配布しました。

最後に、忙しい時期の中ではありますが、配布先の調整等をして頂いた青年部役員をはじめ、部員の方々に厚くお礼申し上げます。



# アメリカのゲノム検査



近年、ゲノム検査は改良の新たなツールとして世界中で注目されています。今回は、アメリカのゲノム検査について紹介します。

## Q1 ゲノム検査って何？

### A1

同じ母牛、同じ種雄牛から生まれた子牛でも同じ能力を持っているわけではありません。牛の遺伝情報（SNP）を調べることで、その牛の能力を予測することができます。

## Q2 ゲノム検査でどんなことが分かるの？

### A2

80項目以上の遺伝形質を調べることが出来ます。能力や体型などのほかに、娘牛妊娠率（DPR）・体細胞数（SCS）・生産寿命（PL）などの見た目だけでは分からない健康係数なども知ることができます。

## Q4 ゲノム検査の結果は実際どうやって使うの？

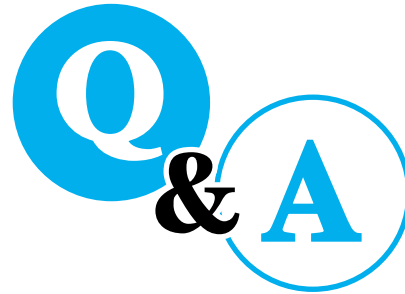
### A4

ほんの一例として、娘牛の妊娠率（発情発見率と受胎率）に影響を及ぼす数値「娘牛妊娠率（DPR）」を紹介します。

牛を個別に見た場合、乳量など生産形質の能力や体細胞数などの健康形質も高くDPRも高ければ、泌乳能力の高い種雄牛の雌雄判別精液を使い後継牛を残すことを考えます。また、能力がマイナスでもDPRが高い場合は、レシピアントとして受精卵移植をするという選択肢があります。牛群全体でDPRの数値が低い場合は、DPRが高い種雄牛を使いDPRの数値をあげていくとよいでしょう。

より能力の高い後継牛の選抜が可能となり、農場の目標に沿った交配計画が可能です。

未経産牛についても能力を予測できるので、改良スピードが飛躍的にアップします。



業務部

## Q3 遺伝的能力が分かると何がいの？

### A3

能力・体型・健康形質が数値化されているので、牛群レベルの現状確認がしやすく、改良目標を立てやすくなります。農場にどの牛を残すか悩んだ時に、より良い判断ができます。生産性の良い牛・健康な牛を農場に残すことが出来れば、農場の収益アップに繋がります。

## Q5 費用は？

### A5

来年度より組合事業として取り組む予定ですが、10,000円／頭程度を予定しています。

## Q6 検査の流れは？

### A6

①試料は専用のアプリケーションを使い、耳片を採取します。

申込みの際は、本牛の個体識別番号・生年月日・父牛・母牛の情報が必要です。

②組合が検査申込みします。

検査依頼先は、野澤組→ゾエティス社または、アルタ→ネオジェン社となります。

③結果は試料送付後1～2ヶ月で届きます。データはWEB上で確認できます。紙でのお知らせも可能です。

ゲノム検査を受けてみたい方は、お気軽にお問合せ下さい。

本所 指導企画課 薄井028-660-2213 または各支所まで



# 生乳受託課

9月は昨年10月以来の前年割れでしたが、令和2年10月度の組合生乳生産量は、1万9383t（前年比101.3%）となりました。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万2847t（前年比102.0%）、宇都宮支所2394t（同101.0%）、県南支所4141t（同99.4%）となり、出荷者数は前年同月より14戸減の375戸（内、学校1）となりました。

10月度の組合平均乳質は、脂肪率3.81%（前年差+0.02%）、無脂固形分率8.85%（同+0.08%）と乳成分は上がり、体細胞数についても20.33万と前年より2.18万低下し改善されている状況です。

関東生乳販連の10月の総受託乳量は8万3177t（前年比99.6%）と40ヶ月連続し前年を下回る状況となりました。用途別販売数量を見ると、学校向けは休校となっていた6月までは前年割れでしたが、7月以降は前年を大きく上回り、10月までの累計で82.0%まで回復しました。なお、学校を除く飲用向けは、10月96.9%と減少傾向ではありますが、累計では100.3%と前年並みの状況です。全国の生産量は101.8%と

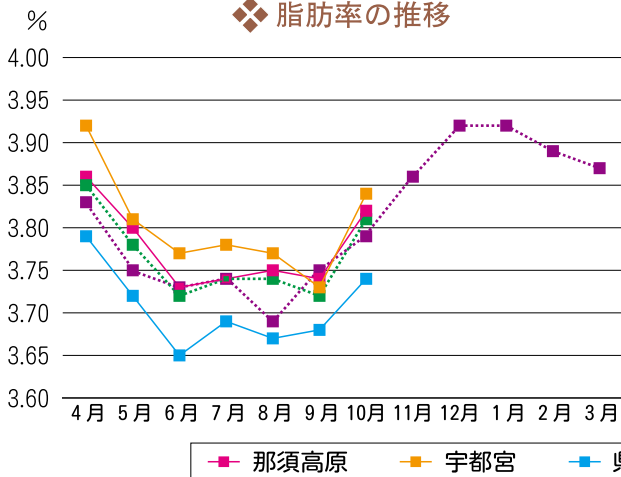
令和2年度 関東生乳販連用途別販売数量 (単位: kg・%)

用途	10月期実績	前年同期実績	前年比	10月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	66,348,753	67,063,552	98.9	456,187,059	466,527,582	97.8
(うち学校を除く飲用)	53,007,133	54,692,933	96.9	403,055,561	401,727,153	100.3
(うち学校向け)	13,341,620	12,370,619	107.8	53,131,498	64,800,429	82.0
はっ酵乳向け	12,233,330	12,541,543	97.5	89,310,633	89,290,541	100.0
脱粉・バター等向け	3,360,772	2,624,986	128.0	41,988,174	36,233,029	115.9
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム等向け	1,151,860	1,174,829	98.0	7,863,040	8,617,032	91.2
チーズ向け	82,685	64,639	127.9	454,245	459,954	98.8
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	83,177,400	83,469,549	99.6	595,803,151	601,128,138	99.1
脱粉・バター等向け比率	4.04	3.14	-	7.05	6.03	-

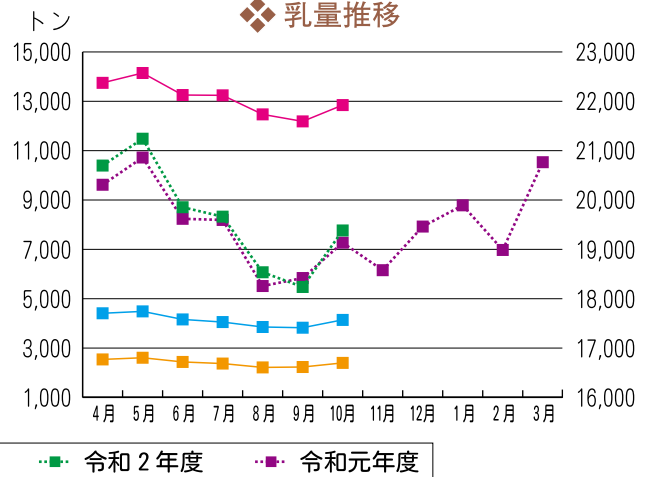
12ヶ月連続で前年を上回りました。北海道が前年比102.5%と20ヶ月連続で前年を上回り、都府県も酪農とちぎと同様に9月は前年割れとなりましたが、10月は前年比100.9%と前年を上回りました。

なお、令和2年10月度の生産量・乳質、及び関東生乳販連の用途別販売数量は別表の通りです。

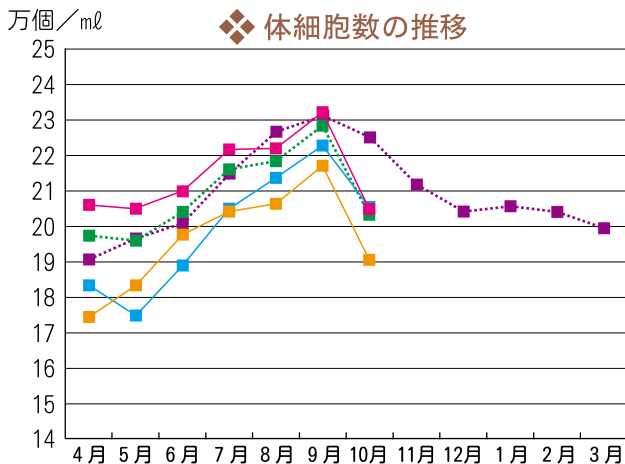
◆ 脂肪率の推移



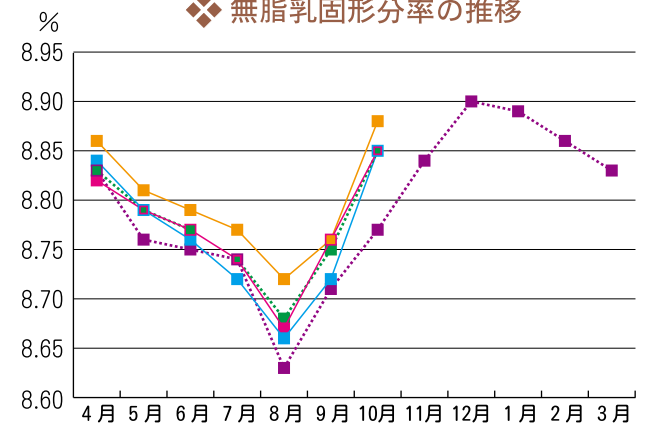
◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



# 理事会だより

## 8月度理事会（8月31日）

### 報告事項

- (一) 組合員の加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 生乳生産管理チェックシート
- (六) 記帳・記録状況について
- (七) 関東生乳販連情報について

## 9月度理事会（9月30日）

### 報告事項

- (一) 組合員の加入・脱退について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 組合プール乳価について
- (五) 酪農とちぎ那須高原クーラー
- (六) ステーション拡張検討結果について
- (七) 牛精液及び受精卵の譲渡契約の締結について
- (八) 関東生乳販連情報について
- (九) 8月度事業実績について
- (十) 農作業時の労働災害防止対策について
- (十一) ヘルパー就業規則等の改正について

## 10月度理事会（10月30日）

### 報告事項

- (一) 組合員の脱退について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について

- (四) 組合プール乳価について
- (五) 特別管理未収金の報告について
- (六) 子会社の上半期事業実績について
- (七) 関東生乳販連情報について

### 協議事項

- (一) 9月度及び上半期事業実績について
- (二) 酪農とちぎ創立20周年記念誌の制作について

## 令和2年度下期支所事業

### 那須高原支所

- 10月9日、支所活動推進協議会（斎藤章会長）に係る4地域酪農組合長会議を開催し、今年度下期事業について協議しました。

### 【実施事業】

- 10月27日 花の苗配付
- ・上半期予定を繰り下げ実施、環境美化に努める。
- 11月18日、27日（7日間）第2回牛舎環境調査
- ・チェックシート記帳・記録の定着化を目指す。

### 【中止事業】

- 支所全体研修会（講演会）
- ・コロナ禍影響により依然各地でクラスターが発生している事と、インフルエンザ流行時期でもあるため中止とする。
- 12月に最終判断予定事業
- ボウリング大会（例年2月実施）

### 宇都宮支所

- 10月14日、支所活動推進協議会役員会が開催され、下期活動推進についての検討を行いました。

### 【実施事業】

- 11月2日 花苗の配布

- 12月8日、10日（3日間）第2回牛舎環境調査
- ・チェックシート記帳・記録の定着化を目指す。

### 【中止事業】

- 支所全体研修会
- ・コロナ禍により中止となりました。

### 県南支所

- 10月12日、県南支所にて各組織の役員会を行い、下期事業について協議し、実施又は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止した事業をお知らせします。

### ●支所活動推進協議会

- 11月5日 花の苗配付
- 3月上旬 確定申告相談会（指導・組合顧問税理士の齋藤譲一氏）
- 年度内随時 青色申告学習会（指導・組合員の根本壽一氏及び大阿久善之氏）

### \*中止事業

- 3月 全体交流会（バーベキュー）
- 地域酪農組合
- 〈芳賀地域〉
- 12月16日 組合員懇談会
- 2月上旬 常勤役員との懇談会
- 〈河内南部・下都賀地域〉
- 12月11日 組合員懇談会
- 1月中旬～下旬 常勤役員との懇談会

- \*中止事業（2地域共通）
- 11月 地域合同研修会

なお、年間行事の一部中止に伴い2地域ともに、飼養管理等に係る資材配布をすることに決定いたしました。

以上、各組織により事業運営して参りますので、今後ともご協力程、宜しくお願いいたします。

## 10月度 ホクレン初妊牛市場成績（単位：千円（税込））

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	（そのうちET牛）		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
根室	10月5日	394	333	84.5%	721	23	20	880
釧路	10月6日	324	304	93.8%	710	5	5	956
十勝	10月7日	541	490	90.6%	739	70	67	907
十勝	10月21日	578	548	94.8%	816	88	81	892
北見	10月22日	431	390	90.5%	696	5	5	718
根室	10月29日	374	370	98.9%	759	29	29	939
合計		2,642	2,435	92.2%	740	220	207	882
前月		2,797	2,061	73.7%	688	211	174	824
前年同月		3,335	2,193	65.8%	718	309	213	850

初妊牛の今後の動向は2～3月分娩が中心となります。春前から9月にかけてゆるやかに平均価格が下がって参りましたが、10月は一転強含みで推移しました。北海道内外の需要が堅調であることや、一部補助事業（加速化事業・増産奨励金）の駆け込み需要が発生した結果であるとの見方が強く、今後春産みの牛が上場するシーズンの到来も合わせて、今後もやや強含みで推移するものと思われまます。導入を希望される方は腹条件、分娩月をご検討の上でお申し込みをよろしくお願い申し上げます。

## 10月度 県内家畜市場成績（単位：円（税込））

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
	F1雄	182	181	62	246,400	19,800	131,471	11,032
	F1雌	170	170	65	260,700	22,000	152,389	▲2,004

今回の初生牛取引価格は前回から比較し、ホルス雄、F1雄はやや弱含み、F1雌はやや強含みで推移しています。F1雄は前号で報告したとおり、3月の198千円を底値に上昇へ転じ7月には281千円まで回復しました。その後相場は全体的に下げ基調となり、7月と比較し約130千円の下落となりました。コロナウイルスの影響により先の読めない展開が続いていますが、回毎に値動きは発生するものの、全体としては概ね横ばい～やや弱含みで推移するものと思われまます。